

現場に役立つ援助の知恵

～特定テーマ評価「保健リファラル・システム」～

特定テーマ評価「保健リファラル・システム」より得られた教訓・学びのエッセンスを「援助の知恵」として取りまとめました。評価結果の詳細については、評価報告書「保健リファラル・システム」をご参照下さい。

Q. リファラル・システムとは何ですか？ リファラル・システムを整備することでどのような効果があるのですか？

一般的にリファラル・システムは、保健システムを構成する重要な要素の一つである「病診連携」と呼ばれ、①1次医療施設などの下位医療施設で対応しきれない患者を2次、3次レベルの上位医療施設へ紹介・搬送するシステムを指します。リファラル・システムを整備することによって、上位医療施設への患者の集中を防ぎ、重症度に見合った施設で患者がより安価な費用で適切な診療を受けることができるようになるなど、限られた医療資源の有効かつ効率的な活用や保健医療サービスの向上につながります。

本評価調査では、上記の概念に加えて、途上国では農村部や遠隔地まで保健医療サービスを届けるのが困難であるという現状を踏まえ、医療施設間の連携体制を地域の末端まで延長させ、②人々の保健医療サービスへのアクセス確保と、③医療施設間の連携体制を活用した情報の伝達や技術の移転までを含め、「リファラル・システム」としました。途上国においては、この広義のリファラル・システムの強化を図ることで、より多くの人々が適切な保健医療サービスを受けられるようになることが期待されます。

Q. リファラル・システムを整備には具体的にどのような協力が考えられますか？

プロジェクトにリファラル・システム整備のためのコンポーネントを組み込む際、プロジェクトの対象地域が都市部か地方かによって異なったアプローチが考えられます。人口が集中する都市部では、医療施設への地理的アクセスが比較的容易ではあるものの、上位医療施設に患者が集中し、混雑によるサービスの質低下が想定されます。この場合、患者がその重症度に見合った医療施設を適切に選択し、また下位から上位医療施設への患者紹介が円滑に実施され

るように、下位医療施設の能力強化や診療費の差別化による患者へのインセンティブの設定、また患者情報を管理するリファラル用紙の充実などといった協力が考えられます。

一方、農村などが散在する地方における協力では、インフラなどの問題から医療施設へのアクセスが困難であることが予想されることから、まずは全ての人々が基礎的な保健医療サービスにアクセスできる体制づくりが必要です。1次医療施設の強化とともに、遠隔地に対するモバイルクリニック(巡回診療)の実施や、村落保健師などによる家庭訪問といった活動が考えられます。その後、さらに高度なサービスを提供していくために、上位医療施設の機能強化などを通じて、より複雑な診療を必要とする患者を上位へリファールしていく体制を整備していくことが重要です。

Q. リファラル・システム整備の協力を形成する際に、特に留意すべき点は何ですか？

リファラル・システムを整備・強化するためには、医療施設だけではなく、患者搬送に係る救急システムや医療財源となる保険制度などを取り扱う関係各機関との連携調整が重要となります。とりわけ、行政機関との密接な連携は必要で、これら機関を巻き込むことにより、医療施設側の問題点や意見を制度整備に反映させたり、リファラル・システムに必要な予算の確保が期待できるなど、インパクト・自立発展性の向上が期待できます。

また、関係機関間の連携・調整は、互いの信頼関係に影響されることから、定期的な会合の開催や上位から下位医療施設への技術研修などを通じて、各機関の人的交流を図り信頼関係を構築することを支援していくことも重要です。

